７．近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (近畿)	良くなっている	都市型ホテル（総務担当）	単価の動き	・客室稼働率は、ほぼ100%に近い。海外からの旅行客が大幅に増えたほか、観光客の増加が販売単価を押し上げている。
	やや良くなっている	一般小売店［事務用品］（経営者）	販売量の動き	・年末商材の売行きが好調である。衆議院選挙後も上向きのまま推移してほしい。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・10月に食料品売場以外のリニューアルを行ったほか、50周年でもあり、当初は好調に推移していたが、11月後半には集客圏内に大型商業施設ができ、厳しい状況となっている。11月は売上が前年比でマイナス７％となっている。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・円安が続き、外国人向けの売上が前月以上に増加している。免税売上は一般商品だけでも前年の３倍となっており、消費税増税後はマイナス基調が続いている既存客売上の落ち込みをカバーし、今月も増収の見通しである。
		百貨店（服飾品担当）	販売量の動き	・都心型店舗は前月に続き好調に推移している。気温の低下とともに防寒商材が動き出し、高額商材も順調に動いている。また、準都心型店舗も比較的好調を維持している。化粧品の販売が前年を上回っているなど、基礎的な商材は消費税増税前の水準に完全に戻ってきた。一方、郊外店舗は回復がやや遅いものの、化粧品は順調に推移している。
		百貨店（商品担当）	単価の動き	・インバウンド客の増加もあり、百貨店の売上はどの商品も前年に比べて増えている。
		百貨店（営業企画）	来客数の動き	・９、10月と前年比で５％減であった入店客数が、今月はほぼ前年並みに回復している。それに連動して食品の売上も回復している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数が増えている上に、単価も下がっていない。安売り商品に偏ることなく、価値に見合った価格の商品が安定的に売れている。消費税増税の影響は短期間で落ち着いている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・プレミアム系商品の売行きが相変わらず好調なほか、おでんや肉まんなどの季節商品の売上も伸びている。また、コーヒーの売上も順調に伸びている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・次の消費税増税が懸念されていたため、その前に乗換えを検討していた客が多い。
		住関連専門店（店員）	お客様の様子	・冬物商材は、気温が下がりきらなければ購入されない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・２～３か月前に比べて、結婚式や忘年会での利用が５～10%増えている。特に、大手企業の利用者が多く、会社からの援助があるようで、高単価での利用が多い。中小企業への景気回復の波及にはもう少し時間がかかりそうだが、週末の飲食店利用者の増加をみると、決して景気は後退しておらず、少しずつ回復しているという実感がわく。
		一般レストラン（企画）	単価の動き	・来客数はほぼ横ばいとなっているが、曜日や時間帯を問わず客単価がアップしているため、前年の売上を上回ってきている。
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・法人関連の宴席の利用状況は、前年とほぼ同じ水準である。一方、円安の影響で外国人客による利用が好調である。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・10～11月は行楽シーズンであるが、昨年に続いて今年も来客数が多い。当地区の競争相手も来客数が多いと聞いており、温泉街は非常ににぎわっている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・忘年会の予約は好調であったが、衆議院が解散となり、突然の選挙モードで宴会のキャンセルも出た。一方、正月の予約は昨年よりも好調である。
		観光型旅館（団体役員）	お客様の様子	・台風で宿泊客は減少したが、売上や宿泊単価は前年を上回っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊の好調が売上全体を押し上げている。今月は紅葉シーズンでもあり、例年高い稼働率となるが、今年はエリア全体が好調で、週末や連休を中心に定価販売も可能な状況である。特に、政策的に取り組んでいる韓国からの宿泊客が大幅に増えている。一方、宴会部門は周年行事の祝賀会などの特殊要因で前年を上回っているが、力強さはない。食堂も、宿泊に伴う朝食利用の増加で売上は増えているが、昼食や夕食は厳しい状況である。

		都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・今年に入っても、稼働率がまだ上昇傾向にあり、宿泊単価も上がっている。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・アベノミクス効果で、少し経済が好転しているように感じる。職人関係の求人倍率が上がり、人手が足りない。
		その他レジャー施設［イベントホール］（職員）	それ以外	・日曜日に梅田に出かけたが大変な人出であった。まだボーナスは出ていないが、各店舗は人であふれ、飲食店も入店待ちで人が並んでいた。家電量販店も、中国人や韓国人を中心に人であふれていた。12月に入ってボーナス支給が始まれば、更ににぎわいが増すと予想される。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・免税売上が急増しているが、通常の売上は依然として悪い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の流動客が減少し、売上を増やすことが厳しくなってきている。客の節約意識が強まって、目的買いが増えており、主婦のほとんどがメモを持って買物をしている。衝動買いもしないようになり、周辺のスーパーでは、売上確保のために消費税増税前以上の値引きをしている。安く売っても多く買うわけではないため、売上が減少している。
		一般小売店［鮮魚］（営業担当）	それ以外	・売上はほぼ横ばいとなっている。国内受注は低調であり、外国受注の好調で差し引きゼロという状況である。
		一般小売店［精肉］（管理担当）	販売量の動き	・景気の動きに関しては格差が感じられる。グレードの高い商品の注文が多い気もするが、実際に動いているのは単価が低い商品である。トータルでみると、販売数量は前年を下回っている。消費税増税分を含む単価上昇の影響もあり、売上から実際の動きが判断しにくくなっている。
		一般小売店［衣服］（経営者）	販売量の動き	・年末を目前に、消費者がセールを待っている状態である。衣料品のシーズンに入ったが、冬物衣料の売行きは昨年と比べてやや悪化気味である。数か月前の夏場に比べると動きはあるが、ほとんど季節的なものであり、消費者の様子や販売量をみても、衣料品の消費に積極的になっているとは思えない。
		一般小売店［衣服］（経営者）	お客様の様子	・気温は下がり始めたが、売上が伸びず、景気は低調である。
		一般小売店［花］（店長）	来客数の動き	・来客数が減少しているが、寒くなった影響なのか、理由がよく分からない。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・９月以降は前年の実績を上回っており、消費税増税の影響は既に消滅したと考えられる。さらに、10月からは外国人観光客向けの免税対象商品が増えたことで、売上の増加も顕著である。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・まだまだ景気が悪く、低価格商品や食品に人気が集まっている一方、高額品やぜいたく品は不調である、政治の不安定さもあり、東日本大震災の復興も含めた、国内需要を安定させる抜本的な政策が必要である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は集客増と冬物商品の売上増により、売上目標は達成予定である。ただし、全商品とも好調とは言い難く、前倒しで商品が動いている可能性がある。また、高額品の動きは悪くないが、バーゲンなどの低価格商品の動きも好調である。価格を気にしない客は一部にみられるが、大半の客は価格を意識しており、まとめ買いなどの目立った動きはみられない。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は前年よりも休日が１日多かったものの、売上は前年と同水準で、来客数はマイナス１％程度となっている。前年は全体の１％強であった外国人売上が、今年は３％弱にまで増えており、それを除くと売上はマイナス傾向となる。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・外国人観光客向けの免税対象商品が拡大となったため、売上は増えているものの、高額品の購入は外国人のみで、国内客の客単価がなかなか上がらない。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月の来客数は前年比で約２割増と、先月までと変化はないが、売上は前年並みで推移しており、買い控えの動きが続いている。また、新たな物産催事を行ったが、当初の計画を下回る結果となり、売上増加のけん引役にはなっていない。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・季節ごとの衣料品の買換えや結婚式、成人式用の着物など、必要な物の購入にはお金をかけるが、普段使いの宝石やバッグなど、今すぐに買わなくてもよい物は、なかなか購入の決定に至らない。

百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・時計や高級ブランド品など、富裕層に支えられた商品は好調であるが、リビング関連や寝具、タオルなど、ボリューム層のファッション関連が低迷している。
スーパー（経営者）	競争相手の様子	・今月の始めに近隣施設の創業祭が始まり、異常な価格への値下げが断行されている。それに合わせて、こちらも価格を下げているが、この状態がいつまで続くのか不安である。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・野菜の相場が反転したため、野菜を中心に売上は減少傾向にあるが、全体の地合いは変わっていない。良い物が売れる反面、低価格商品への志向も強まってきている。
スーパー（広報担当）	お客様の様子	・消費マインドの冷え込みに加え、季節商材の動きが極端に悪い。
スーパー（管理担当）	販売量の動き	・し好品の需要の増加が全くみられず、バターなどの品薄情報まで流れている。購買量は一向に伸びる気配がない。
スーパー（社員）	お客様の様子	・競合店が増えるなか、来客数を増やすのはなかなか難しい状況であるが、最近数店舗で新たに健康や味を追求した商品を導入したところ、客の関心が高く、売行きも好調である。消費者の良い物に対する購買意欲はまだまだ高いことを感じている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・ここ数か月は、来客数、販売量共にほぼ横ばい状態である。
コンビニ（店員）	販売量の動き	・唐揚げなどのファストフードの売上はやや伸びているものの、全体的には３か月前と比べて大きな変化はない。
コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・３か月前に比べて悪い状態が続いている。消費者の買い控えや、天候の悪さによる影響が出ている。
衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・客の雰囲気からすると、買い控えが進んでいる。
家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の財布のひもは依然として固く、故障しない限りは家電品を購入しない人が多い。先行きの生活への不安を感じている人が多いように感じる。
家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・今冬の賞与に関する報道が影響しているのか、下見客が増えてきている。消費税増税の延期もあり、今冬に買換えや買い増しを行う動きがみられる。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・修理などのサービスは売上目標に近いが、新車の販売が伸びていない。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・今月に発売された新型車は好調であるものの、既存車種の販売がやや減っている。
乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・来客数は減少しているが、客単価の上昇で現状が維持できている。年末の動きにも期待はできない。
その他専門店［医薬品］（経営者）	販売量の動き	・気温の寒暖差があり、風邪薬やドリンク類などの売上が若干増えたほか、寒い日も多かったため、カイロや保温用靴下、保湿用の雑貨などの動きが良い。
その他専門店［食品］（経営者）	販売量の動き	・歳暮シーズンに入り、今のところ注文数は昨年と大きな差はないが、衆議院選挙などの影響で、最終的には昨年よりも減るのではないかと予測している。
その他専門店［宝飾品］（販売担当）	お客様の様子	・購買意欲のある消費者が少ない。
一般レストラン（店員）	来客数の動き	・特に明るい材料はないが、先月よりも来客数は増えている。
その他飲食［コーヒーショップ］（店長）	来客数の動き	・消費税増税以降、来客数が減少したまま回復せず、半年が経過した。また、増税直後は単価の上昇による売上増はあったものの、来客数が徐々に減少している。
都市型ホテル（管理担当）	販売量の動き	・客室部門は円安の影響もあり、中国や台湾からの宿泊客が増加し、高稼働が続いている。一方、一般宴会や結婚式、レストランについては、相変わらず低調に推移している。
タクシー運転手	お客様の様子	・前月と同様に、客の乗り控えはあまり目立たず、順調に推移している。
通信会社（経営者）	お客様の様子	・飲食店などの売上が伸び悩んでいる。
通信会社（社員）	販売量の動き	・例年の年末と比較して販売量が伸びてこない。通信大手による光回線の卸売販売といった、新しいスキームが発表されたことが影響している。
美容室（店長）	販売量の動き	・財布のひもが固く、客の動きが鈍くなっている。予約制で営業しているため、予約のない時間帯は営業せずに経費を抑えている。

		その他サービス［ビデオ・ＣＤレンタル］（エリア担当）	販売量の動き	・珍しく、レンタルや書籍などの全商品が前年並みに動いている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・中小零細企業の景気は下降気味であるが、大手流通各社は業績を伸ばしている。顧客、情報の大手への偏りが顕著になっている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・顧客数、成約率共に大きな変化はみられない。
		住宅販売会社（総務担当）	来客数の動き	・現場案内会などのイベントを実施し、集客は前年並みとなっているが、すぐには契約に至らず、時間がかかっている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者［不動産仲介］（経営者）	お客様の様子	・物件の成約件数や、金融機関の融資姿勢に変化がみられない。
	やや悪くなっている	一般小売店［衣服］（経営者）	お客様の様子	・７月以降、高額衣料品は鈍い動きが続いている。今月も前年比で98%と、先月と同じ傾向となっている。
		一般小売店［珈琲］（経営者）	競争相手の様子	・新たに参入してきたコンビニのカウンターコーヒーの販売量が増えており、競争相手となっている。
		一般小売店［野菜］（店長）	お客様の様子	・まだまだ飲食関係の動きが悪い。
		一般小売店［酒］（社員）	販売量の動き	・売上前年比の減少度合いが大きくなっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・円安傾向で海外の高級ブランド品の値上げを予想した客が　輸入宝飾品を購入する動きもあるが、全体的には店頭の来客数や買上額が減少してきている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・気候の影響もあるが、ファッション関連の動きが悪い。特に婦人服が不振である。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・ＧＤＰ成長率の報道で、改めて賃金が上がらないなか、消費税増税によって消費者心理が冷え込んでいることが明らかとなった。当面は冬のボーナス頼みの消費であったが、衆議院選挙がまた消費に水を差す形になりそうで、厳しい状況を脱することができない。
		百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・婦人服の売上前年比は、８月の0.7%減から11月は6.5%減と悪化している。コート類は15%ほど増えるなど好調であるが、秋冬の主力商材であるセーターなどのニット類が20%減と苦戦しており、特にフリー客が少なく、販売量の大幅ダウンとなっている。紳士服、子ども服についても同様の状況で、近隣に大型ショッピングセンターがオープンした影響も要因の一つであると感じている。その影響を受けにくい特選ブランドや化粧品については2.2%増と好調に推移しているなど、全体的には高額品が好調で、低額品の販売量が減少する傾向となっている。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・今月に入り、入店客数や販売数量、単価のすべてが鈍化傾向となっている。特に、中間層の入店や購買に厳しさが感じられる。ファッション関連でも気温が低下せず、冬物衣料が実需期であるにもかかわらず動いていない。衆議院選挙が決まったころから、少し厳しさが増している。消費者が価格に対して厳しくなっているのが、特に食品であり、入店や購買にも慎重さが出てきている。株高による影響は今のところなく、消費マインドは低迷から抜け出せていない。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・来客数の減少が続いているだけでなく、減少幅が大きくなってきている。外商などの富裕層の売上は堅調であるが、中間層以下の動きが大幅に減少している。購入単価は何とか前年を上回っているが、来客数の減少に追いつかない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・11月に入り、気温が下がらないこともさることながら、前年が消費税増税の特需で高額商材が売れ始めた時期であり、冬物衣料や寝具などの売上前年比が低調となっている。また、食品は農産品価格の低下で単価が下がっているほか、気温が高いことで鍋物関連の動きも悪く、買上率が低下している。また、乳製品をはじめとする値上げも相次ぎ、消費意欲が減退している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・以前から節約志向はみられたが、旬の季節になっても関連商品の動きが鈍く、ギフト商戦の流れも悪い状態である。特に、来客数や販売点数が悪化している。

スーパー（店長）	お客様の様子	・チラシに載せた価格訴求品の動きが、今までよりも悪くなっている。安くても客に必要のない商品は売れなくなっており、価格よりも、価値のある商品が求められている。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・11月に入ってからは、10月までに比べて１日当たり５％、人数では200人の来客数が減少してきている。
スーパー（企画）	来客数の動き	・11月中旬以降、個人消費が停滞し始めた。急激な円安や株高に伴う先行き不安や衆議院選挙の影響もあるが、気温の変化が一番の理由であり、その次が景況感の悪化である。
スーパー（開発担当）	販売量の動き	・年末を前に、買い控えが起きている。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・電子マネーの売行きが前年比で10%落ちている。また、プラスワン商材のミニラーメンやみそ汁、スープなどの売上が15%落ちている。客は必要な物だけを買うようになってきている。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・紳士服の小売店の廃業が相次ぎ、その影響で新規顧客の来店が目立っている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・例年、年末は車の乗換えがあるが、衆議院選挙の影響か動きが悪い。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今期８月に入ってから前年比で３割ぐらい売上が減っている。消費が落ち込んでいると感じる。
自動車備品販売店（営業担当）	お客様の様子	・新商品が発売されたものの、客の反応が鈍く、購入意欲が感じられない。
住関連専門店（店長）	販売量の動き	・お祝い品や限定品など、この時期に必ず必要な物や、今しか買えない物ばかりが売れる。逆に、いつでも買える定番品は徐々に売れなくなっている。買い控えのほか、安くなる時期を待つといった、慎重な買い方が通常になっている。
その他専門店［宝石］（経営者）	お客様の様子	・株価は依然として高いが、その恩恵を受けていない人もいる。実際の景気が良くなっていないため、環境は少し悪くなっている。
その他専門店［スポーツ用品］（経理担当）	販売量の動き	・輸入企業である当社は、急激な円安による影響への対応が遅れ、業績の停滞感がある。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・年末の忘年会シーズンを前に、外食を控えているように感じる。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・平日の店舗間で来客数の差が大きくなっている。10月以降に小売価格が上昇した影響で、外食を控える傾向になっている可能性がある。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・商店街の人通りが少ない。節約している人が多く、外食はまさに節約対象となるため、主婦層のランチも１人での来店が多くなっている。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・３か月前との比較では、夏場の来客はスポーツの合宿、アウトドアでのキャンプ利用が占めるため、単純には比べられない。前年、２年前の利用者や客単価で比較すると、前年比で10%ほど改善している一方、２年前比では30%ほど悪化している。温浴施設などの客の様子でも、近隣のリピーターはみられるが、日帰りや観光などでの利用客が激減している。
都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・円安により輸入品の価格が高騰している。また、エネルギー価格の上昇で製造原価や原価率が上昇し、飲食関係では利益の圧迫が強いられるなど、景気は悪化しつつある。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・国内旅行はやや前年を上回って動いているが、海外旅行の予約受付が非常に悪い。円安による割高感が強まっているようである。また、欧州方面ではエボラ出血熱への不安も聞かれるなど、風評被害もみられる。
旅行代理店（店長）	お客様の様子	・様々な報道に影響され、客の不安が高まっている様子がある。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・消費マインドが低下している。
旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・衆議院選挙の影響で、旅行の申込が止まっている。年末年始の受注状況も徐々に悪化し、ボーナスが出てから考えるといった声も多い。
テーマパーク（職員）	販売量の動き	・今月の前半は、客も消費税増税がどう決着するかに大きな関心があったのか、入場者数に対して購買があまり伸びなかった。
ゴルフ場（支配人）	競争相手の様子	・近隣の同業者の状況を確認すると、当店と同様に来客数、単価共に良いという施設はほぼない。

		パチンコ店（店員）	お客様の様子	・無駄な支出を控えるようになっている。
		競艇場（職員）	単価の動き	・客１人当たりの購買単価は、３か月前と比べて96.7%と低下している。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・新築分譲マンションの販売価格が、建築費の高騰により上昇する傾向にある。既に契約率が低下しつつあるが、より一層厳しくなる。
		その他住宅［展示場］（従業員）	お客様の様子	・11月の展示場来場数は増加傾向であるが、アンケート内容をみると、モデルハウスの見学は減少し、イベントや景品目的の来場が増加している。
		その他住宅［情報誌］（編集者）	お客様の様子	・分譲マンションの販売価格の高騰により、一部の物件では販売不振となりつつある。また、過去の相場からのかい離が大きな物件では、販売開始の遅延も発生している。
	悪く なっている	一般小売店［時計］（経営者）	販売量の動き	・来客数が特に少なかったわけではないが、販売量は芳しくなく、売上はかなり少ない。電池交換の価格や商品の割引率を聞きに来店し、また出直すというような動きは一時減っていたが、ここへきてシビアな動きが増えてきた。景気が冷え込みつつあることが感じられる状況となっている。
		一般小売店［貴金属製品］（従業員）	来客数の動き	・年末の忙しくなる時期の衆議院選挙であるため、人が街からいなくなっている。
		一般小売店［花］（店員）	お客様の様子	・客の購買意欲が、以前に比べて低いと感じられる。
		百貨店（販促担当）	販売量の動き	・今月に入って高額品の動きが悪く、中旬以降は衣料品や雑貨の動きも鈍化している。全国的にも似たような状況であり、冬物衣料や冬物商材の動きが良くない。来客数は前年並みながら、客単価が大きく落ち込んでいる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・景況感の悪化のほか、円安による物価の上昇などが家計を圧迫している。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・買い渋りの状況が目立ってきている。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9,661円であり、３か月前は10,260円であった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・理由は分からないが、売上が前年比で40%ぐらいダウンしている。何が原因か教えてほしいぐらいである。
企業動向関連 (近畿)	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅関連では消費税増税の先送りによる影響が出そうであるが、戸建住宅、マンションの宣伝、販促物は既に動いており、受注量は増えている。また、大学関係や専門学校からの受注量も増えている。一方、弱電業界については、受注量の変化はほとんどみられない。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず売上は低調であるが、少しずつ前年比で回復傾向がみられるので、今後に期待したい。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・国内の建築関係の受注量が前年比で約25%増えている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼関連の設備投資の案件が増えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の大企業の多くは海外に拠点を移しているので、国内市場は明らかに停滞している。それに伴い、受注量や販売量の動きは良くないが、徐々に回復はしている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が少しずつ増えている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末に向けて受注が増えてきている。年度末の完工に向けての動きであり、特に太陽光発電関連は問い合わせも増えている。
		新聞販売店［広告］（店主）	受注量や販売量の動き	・若干であるが折込件数が増えている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・衆議院選挙が行われる関係で、広告の特需が新聞などで少しみられる。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末、クリスマス需要に伴う受注案件がやや増えている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・顧客は関西の弱電関連の企業であるが、アベノミクスの影響が出ている。

	その他非製造業［商社］（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・製品の動きはあるが、利益は減っている。
変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月間、前年に比べると浮き沈みはあるが、大きな変化はない。新規の開発依頼が増えているのは、同業他社が値上げなどを打診している影響と考えられる。今まで取引のなかった業者に見積を依頼し、価格の見直しを進めている。
	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・昨年と比べて雨が多く、気温も低いなど、天候が不安定であるため、飲料水の売上が良くない。販売価格を下げても、消費者の購入は今一つの状況である。
	食料品製造業（経理担当）	それ以外	・販促関連のコストがかさんできている。
	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・年末の最需要期であるが、需要の盛り上がりに欠けており、受注量が前年を下回る傾向にある。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・11月にしては受注量が良くない。多くの顧客からも厳しい声が聞かれる。
	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・簡単な加工商品を中心に、納期の短い注文が月末に集中する傾向がある。
	金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・建築現場の職人不足の影響で、予定していた物件の完成が遅れている。また、電力会社による電力買取の見合わせにより、ソーラーパネル関連の出荷が減っている。
	一般機械器具製造業（設計担当）	受注量や販売量の動き	・企業間の取引動向は、横ばいの状態である。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・製造業では設備の稼働率が上がってきていると感じるが、更に稼働率が上がれば、設備投資が増加する。
	電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・年末商戦で若干荷動きは活発になっているが、景気の良し悪しを判断するのは難しい状況である。
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・11～12月は設備更新の需要が例年多いが、今年はそういった動きがない。消費税増税の延期によって先送りにされた感じがある。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内の設備投資が停滞しており、引き合いはあるものの、価格競争が激化している。受注へ向けての企業努力が必要である。
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・技能労働者不足や技術者不足、建設資材の高騰など、早期に解決できない課題が山積している。仕事があっても取りに行けない同業者もある。
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・まだ一部の業種に人手不足がみられるが、先の受注の陰りも予想され、人件費を上げるまでには至らない。
	輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・精密機器の配送には一服感があり、予想を下回っている。
	通信業（管理担当）	それ以外	・スーパーなどでは商品価格が上がっている。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・企業の売上は前年と変わらない一方、消費税が増税となったことで、実質的に減少している。中小企業が黒字体質に変化するよう努力するなかで、増税が妨げとなっているため、景気回復感はかなり薄いのが現状である。
	金融業［投資運用業］（代表）	それ以外	・円安、株高の動きが進んでいるが、あまりに急速な進行であるため、そのうち反動が出てくる。結局は以前と変わらない経済状況にいったんは落ち着く。
	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・東日本大震災以来、神戸から企業が移転する動きが止まっていない。事務所や社宅ニーズの減少によって不動産の賃料が下がり、空室率は上がっている。これが景気の良くない原因となっている。
	経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・偶然であろうが、当社への業務依頼が増加しており、対応しきれない状態にある。ただし、委託業務の依頼額は増えていない。
	コピーサービス業（店長）	受注量や販売量の動き	・受注量に若干の増加は感じるが、良くなっているという実感はない。
	その他サービス業［店舗開発］（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月中旬から下旬にかけて紅葉シーズンもいよいよ本格的となり、駅ナカ店舗は久々に大にぎわいとなっている。
やや悪くなっている	繊維工業（総務担当）	それ以外	・更なる円安の影響で、仕入コストが急激に上昇してきている。

		繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・大手の販売仲介業者による経営方針の転換などで、催事での販売量が減少している。来年度からは、販売見込みが今年よりも20%以上減少すると予想される。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取扱製品が輸出品の関連部品であるにもかかわらず、動きに何の変化もみられない。円安の進行に少しは期待していたが、以前よりも荷動きは悪くなっている。
		金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・自動車や建築関連向けの出荷量が共に減少してきている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅、マンション向け商品の注文量の減少が続いており、回復の兆しがみえない。
		その他非製造業［機械器具卸］（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ここ３か月ぐらいで15円も為替の変動があり、円安に進んでいる。すべての輸入商品の値段が上がり、今のところは利益が圧迫されている。
	悪くなっている	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年比が、月を追うごとに90%から80%へと下がってきている。
		その他サービス［自動車修理］（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は販売台数、売上共に少ない。
		その他非製造業［電気業］（営業担当）	受注量や販売量の動き	・アベノミクスが浸透していない。
雇用関連 (近畿)	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・年度末に向けて受注が先行している。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・現在は長期的な案件が多くなっており、求人数も増えてきている。有効求人倍率も1.12倍と前月よりも上昇しているが、その分求職者の確保が大変難しくなってきている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・12月になるというのに関西特有の慌ただしさがない。例年であれば、年末や年度末に向けて派遣などの求人が活発になるところであるが、今年は不発に終わりそうである。先月と同様に求人は多くないと感じるが、住宅建築やインフラ、土木関連は人材の需要が増えており、関西にも少し明るさが出てきている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数が減少気味である。欠員補充を社内調整で行う企業が増えている印象がある。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・人手不足のため、求人数は減少していない。ただし、企業が複数の人材会社に求人オーダーを出している傾向があり、求人数の多さが景気の良さを示していることにはならない。それらを加味すれば、大きな変動はないように感じられる。
		新聞社［求人広告］（担当者）	それ以外	・新聞広告の出稿状況をみると、前年比で100%前後とほぼ変わっていない。
		新聞社［求人広告］（管理担当）	求人数の動き	・新聞の求人広告はやや増加しているが、これは12月の賞与支給後に求職者数が増えることを期待した、季節的な動きと考えられる。
		新聞社［求人広告］（営業担当）	雇用形態の様子	・衆議院選挙があると、人と物と金の動きが悪くなるという見方があるが、生活者も含めて、それぞれの立場で新体制への様子見の動きとなる。一方、大阪の心斎橋・難波地区では、特に海外からの旅行者の姿が目立ち、ドラッグストアや百円ショップ、飲食店も繁盛している。ホテルの稼働率も高い状況が続いている。雇用も活性化しているはずであるが、あまり実感がない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・事業所からは、求人を出してもなかなか充足しないとの声が聞かれる。求職者の間では、今の職場よりも勤務条件の良い事業所への転職希望も多い。３か月前から状況に変化はなく、事業所からも景気が良くなったとの声はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で大幅に減少している。前年にみられた冬季限定の大量求人が今年は時期がずれ、それを除けば前年並みとなっている。業種別にみると、全体の大きな割合を占める製造業、小売業は増加しているが、卸売業や飲食業など、多くの業種で減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が減少している。

		学校［大学］（就職担当）	周辺企業の様子	・求人数や採用者数は昨年度よりも増加しているが、企業の担当者からは、景気が上昇しているからではないといった声が多い。
		学校［大学］（就職担当）	求人数の動き	・企業の求人意欲はおう盛であるが、求人数の伸びは鈍化している。
		学校［大学］（就職担当）	採用者数の動き	・医療系の採用については、前年と求人数はあまり変わらないが、内々定の報告がやや早まっている。全体として売手市場であることに変化はないと感じている。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は米国の大型金融機関が破たんする前の水準に回復したが、求人内容はパートの比率が高い。また、正社員の求人倍率は依然として１倍を下回っている。消費者の購買意欲の低下に伴い、卸・小売業や食料品製造業などの業種の求人数は、昨年と比べて減少している。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設部門を中心とした日雇い求人数は、前年比での減少幅が少しずつ大きくなっている。
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・３か月前と比較すると、求人数が若干減少している傾向がみられる。
	悪くなっている	－	－	－